



HPはこちら

J R 東日本の新幹線 相次ぐ運転見合わせと輸送障害 連結関係装置の車両トラブルについて議論を行う！

J R 東日本の新幹線は列車分離にとどまらず、車両トラブルが相次ぎ発生しています。

そうした中で 8 月 24 日に東北新幹線「やまびこ 63 号」大宮～小山駅間で車両トラブルが発生してしまいました。

当日は新幹線が運転を見合わせたことにより、お客さまに多大なるご迷惑をお掛けしたとともに経営上でも大きな損失を出してしまっています。

このことに対して東日本ユニオンは、車両トラブルに関する「原因と対策」「お客さまと経営に関する影響」について、10 月 7 日、経営側と団体交渉を行いました。(幹申第 1 号)

《経営側の回答（要旨）》

- 8 月 24 日に発生した走行中の車両故障については現在も原因調査中である。
- この車両故障に対する具体的な対策、再発防止策は現段階では立てられない。
- 現在も同様の車両トラブルが発生する可能性はある。ゼロとは言えない。
- 同様に走行中に車両故障してしまった場合には乗務員等が対応し、早期運転再開が可能となるよう整備している。また乗務員への教育は 10 月中に行う。
- 今回の車両故障は列車の装置が走行中に「分割」位置から「併合」位置に誤動作したことで、緊急ブレーキがかかった。逆に装置が「併合」位置から「分割」位置に誤動作する可能性もある。
- 高速運行の新幹線の制御は設計思想に則っている。
- メンテナンスはきちんと行ってきたが、誤動作が発生している状況である。
- 当日は上下 49 本が運休、88 本が遅延し、約 69,000 名のお客さまにご迷惑をお掛けした。
- 今回の車両トラブルにより生じた経営損失について、新幹線統括本部としては答えられない。

当日は 3 時間もの運転見合わせが発生し、大きな輸送障害を招いてしまいました。

8 月 24 日に発生した車両故障の原因について 10 月 7 日現在でも原因調査中であり、装置の誤動作により、走行中、緊急ブレーキで停車した場合には、運転見合わせとなった場合でも早期の運転再開が可能となるよう整備しているのが、今日段階での対策となっています。

新幹線の安全の確立の上に立った安定輸送を目指して、会社と議論を継続します。